

HAKUOH JHS NEWS

白鷗大学足利中学校新聞 -vol.100-



発行所 / 白鷗大学足利中学校新聞委員会 足利市伊勢南町4-3 TEL.0284-42-1131

卒業おめでとう!

巣立つ42名の未来に輝かしい光あれ!!



喜劇 in 白鷗中

大井 陽斗

僕は、白鷗中で多くの経験をし、数え切れないほどの思い出ができました。みんなで協力し総合優勝、最優秀賞を目指した体育祭と合唱祭。いつの間にか目的が感謝を伝えることから笑わせることに変化した予餞会。志賀高原の自然の豊かさに驚いた林間学校と寒さに驚いたスキー教室。挙げ

だしたらキリがありません。そして、このように3年間を楽しく過ごすことができたのは、かけがえない親友のおかげです。今まで何度も何度も助けられました。本当に感謝でいっぱいです。だからこそ高校へ行ったらこれを2倍?10倍?いや1万倍にして、お返ししようと思います。覚悟しとけ!というわけで、このあたりで3年間の喜劇に幕を閉じたいと思います。



す。全身全霊の感謝を込めて。

キセキ

岡田 歩弓

新型コロナウイルスによる休校。これが私の白鷗中ライフの始まりです。Zoomによる授業など、異例の事態に私は戸惑いを隠しきれませんでした。友達とはできるのか。先輩方とうまく話せるのか。先生方と楽しく授業を受けることができるのか。しかしそのような不安は、



休校が明けるとすぐになくなりました。休み時間には笑いが絶えないほど楽しく話せる友達。駅のホームで話しかけてくださる先輩方。わかりやすく、とても面白い授業をしてくださる先生方。すべての出会いが私にとっての奇跡でした。私を大きく成長させてくれた白鷗中。私の歩んできた軌跡。本当にありがとうございました。私は白鷗中生になれて最高でした。

コロナ禍での私たち

尾上 紗羽

このままでは友達ができないと焦り、一緒に帰ろうと頑張って話しかけ



た入学当時。いよいよ学校生活が始まったと思っただ途端リモート授業。なかなかみんなとの交流がなく、仲を深めることができませんでした。そんな中でも、体育祭、林間学校、スキー教室、合唱祭、予餞会といった行事を行えたこと、そし

私たちの3年間

森山 裕太

て沖縄への修学旅行に行けたことは何よりの思い出となりました。私たちがのために様々なことに協力してくださった先生方には本当に感謝しています。時には、私はこの学校にふさわしかったのだろうかと思う日もありました。しかし、今ではこんなに素敵な友達にも出会った。「この学校に入っ



白鷗に入学する時、友達ができるかな、真面目な感じの学校だから休み時間にも友達と笑い話ができるような雰囲気じゃないのかな、と心配ばかりでした。しかし、登校初日。一人の男子と意気投合し早速友達ができました。休み時間もすごく楽しく過ごせ安心しました。新型コロナウイルスの影響で、オンラ

イン授業や登校、恒例行事の中止等もありました。会えなかった時間や中止等を経験した分、修学旅行などの実施できた行事が一生涯忘れることができないう思い出となりました。この思い出を胸に高校生活も頑張ります。

贅沢な3年間

吉村 斗貴

私の過ごした白鷗中の生活はとても中身の濃いものとなりました。入学早々、新型コロナウイルスの影響で2ヶ月もの間学

校へ行くことができず、画面越しでしか会えない新たな友人たちに早く会いたいと願う毎日でした。だからこそ今、当たり前のように仲良くしてくる友人には感謝してもしきれません。1年生の時



3年生“卒業制作”

素敵な仮困いアート、貼り付けられる日が楽しみです。

3年生の卒業制作として、現在新校舎建設中の壁に貼り付ける「仮困いアート」を作成しました。各クラス、テーマを決め、それに合った絵を班ごとに作成しました。1組のテーマは「キセキ」、2組のテーマは「3年間の思い出」です。



“キセキ”



“3年間の思い出”



足利納税貯蓄組合
連合会長賞

令和4年度中学生「税についての作文」 頼り頼られる

3年 泉田 陽依梨

私は生活保護を受けていない。もちろん、年金も受け取っていない。今まで救急車や消防車にお世話になったこともなければ、手術を受けたこともない。自分が払った分のもとを取っていないどころか、一切税金に助けられていない。だから、税金があってもいいことがない。そう思

っていた。この作文を書くために税の使われ方を調べていると、ごみの処理にも税金が使われていることが分かった。私は小学生の頃、登校時にごみを出す手伝いをしていた。朝ごみを出して帰りはもうごみは回収されている。これが当たり前前で、もし回収車が

来なかったらと考えたこともなかった。しかし、税金がなかったら出したごみはそのまま回収されることはないのだと初めて気が付いた。私たちの生活は、税金なしでは成り立たないのだと知り、税金の必要性を感じずにはいられなかった。

また、税金は貧しい国への支援としても使われていると書かれていた。発展途上国に関心を持ちたい、力になりたいと思ったりしても中学生は医療を提供することも勉強

を教えるに行くこともできない。しかし、たった2000円の商品を買うだけで、そういった国を支援

できるのだ。私はこれを知り嬉しくなった。今までどんなに考えても無理だと思っていたことが、こんなにも簡単にできてしまう。確かに、経済力のない中学生が買えるものは安く、消費税も大した金額にはならないかもしれない。しかし、これが1000人、2000人と増えたらどうだろう。一人ひとりの影響力は小さくても、大勢集まった人

の力をなれる。その事実が、とても嬉しかった。それは、外国に限ったことではないと思う。もし家族が病気になつてしまつたら、私が払っている税金で助けることができるのだ。

今の日本の収入は約6割が税金で、税金が国を支えているといつても過言ではない。私たちは生きていく限り税金を払い続ける。だから私は払い続ける。「頼り頼られる」ために。

立志式 自分を見つめ直す 2年 久保田 莉乃

十四歳。私は立志を迎えます。同時に、自分が将来どうなりたいのか、自分のことを見つめ直す時期でもあります。今の私は、具体的にやりたい職業が見つからず、探しているところですが、私には好きなことがたくさんあります。例えば、洋服やアイドル、ドラマを見ることなどです。特に、洋服は周りの大人やテレビに出てくる芸能人にあこがれているうちに、大好きになっていきました。私にとって服を見たり選んだりする時間は、本当に幸せです。だから、私は将来自分の好きなことに関わる仕事をしたいです。自分の好きなことをしているのが楽しくて、自然と笑顔になれます。今私の私にとってそういう存在は洋服だと思えます。これからまた違うことに興味を持って変わるかもしれないけれど、今は



アッシヨンの職業に興味があります。そして、その良さを世界中の人に広められるような人になりたいです。でも、そのために今何ができるのかは、まだはっきり分かりません。まずは、「千里の道も一歩から」という言葉があるように、日々の身近な努力を着実に積み重ねていきたいです。

私の将来の夢は理学療法士です。いつからそう思ったのかというと、中学1年生の時の総合学習の課題として出された職業調べがきっかけでした。私は何となく職業を選んで適当にプレゼンテーションを作りました。1時間くらいで作った内容で1分もかからなかった発表ですが、今でもよく覚えていています。しかし、その後から妹と一緒に遊んだり、父母に代わってお世話をしたりする時間が増えました。

私のすぐ下の妹は脳性まひを患っています。しやべることは下手だし、生活より良くし、私たちの夢を支えてくれる。私たちは、税金を支えられている。そして税金を払うことで国を支えている。私がこの作文を通して考えた、税金と国民のあるべき姿は「頼り頼られる」という関係だ。この関係を維持することこそが未来を担う私たちの使命だ。だから私は払い続ける。「頼り頼られる」ために。

立志式 私の夢

2年 服部 和佳



一人です。一人で立ったり歩いたりできないので移動は車いすです。それでも、みんなと一緒に行きたいです。理学療法士になるために私にはやっかいな課題があります。それは相手と上手にコミュニケーションを取ることです。私は初対面の人と話すことがすごく苦手です。でも最近、「あなたと妹のやりとりは周りが楽しくなるから大丈夫だよ。」と母に言われ、少し自信が持てました。また、理学療法士も人の命に関わる仕事なので、身体のしくみや医療についてもしっかりと勉強しなければなりません。そのため、将来の基礎となる今の勉強を大事にしなければなりません。これは今の時点での私の夢です。少しづつ気持ちは変わるかもしれませんが、頑張る妹を支えたい気持ちは持ち続けたいです。高校生になったら専門の道へ進路を決めるときには、自信を持って自分の夢を両親に伝えたいです。

